

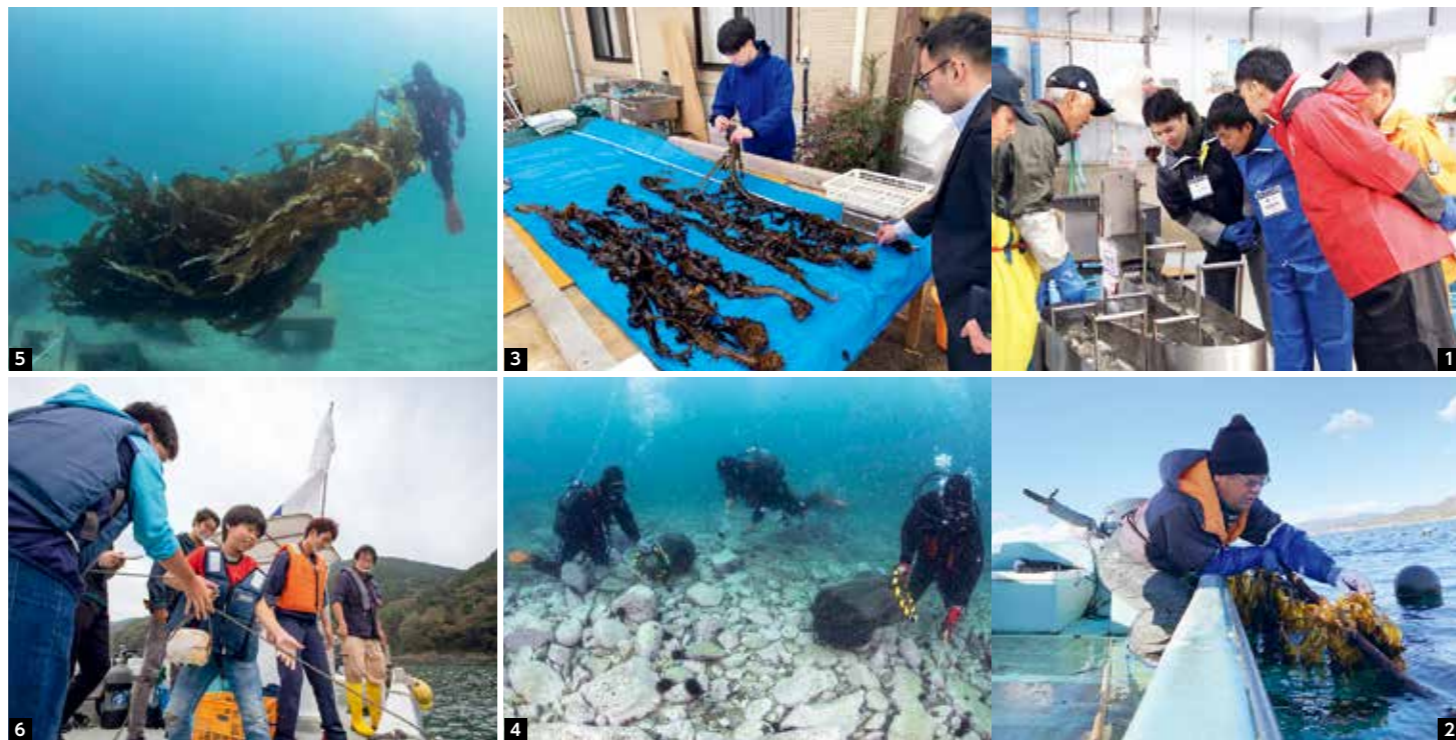


知事コラム 村井が走る

なぜ今、 病院再編が必要なのか

仙台医療圏は県内四つの医療圏の一つで、仙台市を中心に6市7町1村で構成しています。私は先の知事選挙で、東北労災病院と県立精神医療センターを合築して富谷市に、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合して名取市に移転新築する構想を打ち出しました。これは唐突な思い付きではなく、時間をかけ県立病院の在り方を有識者に検討していただき、高齢化が進み合併症（いろいろな病気の併発）への対応が必要だということから総合病院と一つに（あるいは隣接）することが望ましいという結論に基づいたものでした。また、私が知事に就任する以前から抱えていた大きな課題として、仙台市への総合病院の集中が挙げられ、特に救急搬送の面で問題がありました。救急搬送の遅れは命に関わりますが、宮城県は他県に比べ救急搬送時間が長く、とりわけ県南の沿岸市町と黒川郡では時間がかかっており、その対応が喫緊の課題でした。以上のようなことを総合的に勘案し、名取市と富谷市にそれぞれ総合病院をつくる方向で検討を進め、2月には令和5年度中の合意を目指すこととする確認書をそれぞれの本部（本社）と取り交わしました。この大きな方針のもと、今後は患者さんや病院関係者の皆さんなどと意見を交わしてより良い方向に進むよう努力したいと考えています。ぜひ関心を持って見守っててください。

宮城県知事 村井 嘉浩



【写真の説明】
1 担い手育成事業での漁業体験の様子 **2** ワカメ養殖の様子 **3** ワカメの成長を記録している様子 **4** ウニを除去している様子（撮影：関戸紀倫氏） **5** 海藻を移植している様子（撮影：関戸紀倫氏） **6** 子ども漁業体験の様子（協力：石巻子どもセンター）

を吸収するため、地球温暖化対策にも貢献しています。海藻を養殖しながら環境に良いことをしているということが目に見える形で認識されれば、漁師の方々の自信や誇りにつながるのではないかと考えています。

また、昨今、「磯焼け」と呼ばれる海から海藻が消えていく現象が県内の海でも起きており、問題になっています。原因の一つが、海藻を食べ尽くすウニです。

そのため、私たちは、ウニの除去と、その場所への海藻の移植を行っています。除去したウニは身入りが悪いことが多いため、それらを陸上で育てて出荷する新たなビジネスにもチャレンジしています。

さらに、次世代を担う子どもたちに海を正しく知ってもらう学びの機会も提供しています。海藻は、魚の餌やすみかになり、二酸化炭素を吸収し、海をきれいにしてくれるので、私たちはこの活動を続け、海藻の森をつくることを目指しています。



一般社団法人
 フィッシャーマン・ジャパン
 CSO(サステナビリティ責任者)
 長谷川 琢也さん(左)
 クリエイティブライター
 香川 幹さん(右)

— 今後の展望は？ —
 私たち民間団体をはじめ、行政や漁業従事者、消費者の方に、ブルーカーボンの必要性を認識してもらいたいです。そのために、広報活動や子どもたちの学びの場の提供などに力を入れ、一人でも多くの方が知り、体感できる機会を増やしたいです。そして、未来の海のために、この活動をしっかりと継続させていきたいです。

本シリーズでは、県政運営の基本方針「新・宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置づけている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組み県内の企業・団体などを紹介していきます。



第12回

みやぎの 海岸線から 未来をつくる

一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン(石巻市)



海洋生物による地球温暖化対策として注目を集める「ブルーカーボン」の普及に向け、県が推進する「宮城ブルーカーボンプロジェクト」において中核的な活動を担っている一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンの長谷川琢也さんと香川幹さんにお話を伺いました。

— フィッシャーマン・ジャパンとしての 主な活動内容は？ —

漁業などの二次産業は、3K(きつい、汚い、危険)といったイメージがある中、私たちは、新3K(かっこいい、稼げる、革新的)を活動理念に掲げ、漁業の魅力発信や担い手の育成、水産物販売などの活動を行っています。具体的には、県内外からの漁業従事者を増やすことを目的として、水産業専門求人サイトの立ち上げによる若者がアクセスしやすい環境の整備や、移住者向けのシェアハウスの運営などの活動を行っています。さらに、これら

の活動に加え、「宮城ブルーカーボンプロジェクト」という地球温暖化対策の取り組みを行っています。

— 宮城ブルーカーボンプロジェクトとは？ —

森林や植物が二酸化炭素を吸収し炭素を蓄えるように、海藻などの海洋生物が蓄えた炭素のことを、ブルーカーボンといいます。宮城ブルーカーボンプロジェクトは、水産業から発生する二酸化炭素量の把握と海藻を養殖した際の削減貢献量を明らかにすることにより、環境配慮型水産業とすることを目的としています。

具体的な取り組みは、「ワカメ養殖による二酸化炭素吸収・固定」と「磯焼け対策」です。ワカメ養殖では、3カ所のモデル地区を設定し、地区ごとの成長を計測・記録・データ化することで、ワカメ養殖による二酸化炭素の吸収・固定量を算定します。ワカメなどの海藻は、成長過程で出す「ぬめり成分」が炭素

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ

2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン(石巻市)

特集1

4 仙台医療圏の病院再編
持続可能な医療の提供に向けて

特集2

8 子どもとお出かけしやすい環境づくり
置き型授乳室設置の推進

特集3

10 みやぎの観光地域づくり
~ 地域内外から選ばれる観光地域を目指して ~

県政ニュース

12 マイナンバーカードはお持ちですか？

県政ニュース

13 第13回 宮城マスター検定1級試験のお知らせ

14 みやぎニュースクリップ

おいしいものがたくさん!
15 まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(丸森町・利府町)

21 県立施設インフォメーション

22 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和5年4月末現在)

住民基本台帳人口/2,249,735人(前年同月比-13,303人)

男/1,097,145人 女/1,152,590人

世帯数/1,041,494世帯(前年同月比+10,437世帯)

今号の表紙

水産業を未来につなぐフィッシャーマン!

「宮城ブルーカーボンプロジェクト」に取り組む一般社団法人フィッシャーマン・ジャパンの高橋さんです。海を見つめるまなざしは、真剣そのもの。かっこいい海の男の姿を収めた一枚です。